

FD 関連研修会 参加報告書

主 催	法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター
企画名称・テーマ	法政大学第 9 回 FD シンポジウム
開催日<会場>	2011 年 10 月 8 日 (土) <法政大学 市ヶ谷キャンパス>
参加者所属	文学部 中国学科

参加報告

<基調講演>

羽田貴史氏「大学教員の能力形成プロセスと FD の課題」。

FD を PD (Professional Development、専門性開発) に言い換えたい。授業評価、教員評価の有効性は、部局長は高く、教員は低く見ている。研修への参加、サバティカルは、部局長、教員ともに有効と見ている。授業参観・指導助言・サバティカル・授業軽減への期待が高い。忙しい教員を FD に参加させるのではなく、日常業務に FD を組み込むべき。FD (特に学内 FD) は、必ずしも有効性を認識されない傾向にある。

<話題提供①>

山田剛史氏「多様性と標準性、同僚性と専門性の相克を超えて～誰のための、何のための FD か～」。

「組織体制」「意思決定」の問題 (組織改革にビジョンがない、不毛なミニ組織が乱立、適切なリーダーシップに基づく意思決定の欠如)。対象は、自組織ならびに多くの大学の一般教員であり、さらに、学生の学びの質保証・向上に寄与するもの。

<話題提供②>

鳥居朋子氏「根拠に基づく教育改善の可能性—FD 再考の視点から—」。

完璧なプログラムを行えるような魔法の公式 (magic formula) などない。組織的な FD が組織的な教育を担保するわけではなく、いかに組織的な一体感を生み出すかが問題。学生実態調査の可能性 (困難を抱える学生群を可視化する)。

<話題提供③>

山田礼子氏「エビデンスベースから FD を推薦する：同志社大学での経験をベースに」。

質保証の一環としてのデータの活用 (何を教えるかから何ができるか、に発想を転換)。

IR (Institutional Research) システムは何に使えるのか (教育効果や教育成果の可視化を通じた客観的な現状評価、教育改善に活用する)。4 大学連携学生調査。

<話題提供④>

川上忠重氏「法政大学における FD の取り組み」。

新入生向けに『学習支援ハンドブック 2011』を作成。「授業改善アンケート」は、期首(任意)・期中(任意)・期末(全授業)があり、全て記名式 (教員と受講生が協力して授業改善に取り組むため)。期末アンケートの自由記述欄の活用。

<パネルディスカッション>

教育能力 (学生理解力、自己反省力)、リサーチ能力は不可欠。学生に対して忍耐強く向き合える力。懐の深い大学。サバティカルの重要性。学生へのフィードバック (教員は多くの授業を抱えてフィードバックする余裕がない)。

以上